

# ふれあい・コンタクト

動物と出会い、人と触れ合っ心ときめきをコーディネートするために

円山動物園ボランティア会  
代表世話役 竹尾 昌己

## ニュースレター

### <年頭挨拶>

ボランティア会代表世話役 竹尾昌己

皆様、謹んで新年のお慶びを申し上げます。今年も素晴らしい1年になりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年は新しい4班体制「ふれあい班」「ワイルド班」「やせい班」「クマチカ班」になり、皆さんはガイドやイベントをそれぞれ試行錯誤を重ねながら、何とかやりとげたのではないかと思います。私もガイドをしながら、他人を思いやり、気遣うことを学びました。同時に人の温かみや情感をとらえる事も出来ました。

平成22年は大変なベビーブームになりました。プレリードック・ゼニガタアザラシ・シンリンオオカミ・オランウータン・リスザル・レッサーパンダ等々、そのお陰で来園者も目標の90万人になりそうです。今年、動物園は60周年を迎えますが、これを機に今まで以上に子供達やお年寄りにとって、心の安らぐ場になりたいと思っています。本年もよろしくお願い致します。



円山動物園園長 酒井裕司

ボランティア会の皆様、明けましておめでとうございます。昨年は国際生物多様性年で、近年の人間社会の活動により急速に失われつつある、多種多様な種と生態系の大切さが大きくクローズアップされました。そしてまた、こうした状況打開のために、種の保存事業を行うことが出来る動物園や水族館の役割の重要性についても、認識が深まった年でもありました。

こうした中、円山動物園におきましては、5月のシンリンオオカミ、オランウータン、7月のレッサーパンダなど、昨年はたくさんの希少動物の繁殖に成功し、大きな話題を提供するとともに、多くのお客様にご来園いただくことが出来ました。

そして、迎えた今年が開園60年という節目の年であります。本年4月には、待望の新は虫類・両生類館がオープンいたしますし、昨年9月で閉園した遊園地跡地には、いよいよアジア館、アフリカ館というこれからの円山動物園の屋台骨を担う施設の建設もスタートいたします。今年も、円山動物園はボランティアの皆様と手を携えて、社会的に大きくなって行く動物園の役割を十分果たしつつ、市民に愛され続ける「私の動物園」として歩んでまいりたいと思います。本年もまた、よろしくお願い申し上げます。



### <今年の干支(卯)ウサギ舎からご報告>

お馴染みのプレミッシュ ジャイアント（カイウサギの中で最大）、とネザーランド ドワーフ（カイウサギで最小）に新しい仲間、ホーランド ロップが加わりました。原産地はオランダです。長い耳が横に伸びているのが特徴です。生後2ヶ月との事で初夏頃には繁殖も可能です。ドサンゴの森のエゾユキウサギもすっかり白くなりました。昨年の4月と6月にエゾユキウサギの赤ちゃん、4匹（羽）が保護されました。当時は脱水症状が見られましたが、飼育員さんの懸命な人工保育で、元気に育っているとの事です。ところで、ウサギの数は、1匹？1羽？それとも1頭？気になる方はウサギ舎で確かめては如何でしょうか。野生のエゾユキウサギは生まれた時から目が開き毛も生えて、次の日から草を食べ数日後には授乳も終わり、親子の縁は切れます。子ウサギは自力で生きていかなければなりません。特に冬は空と陸から狙われ続けるので大変です。野生の子ウサギの生存率は1～2割だそうだから厳しいですね。でも、ユキウサギは足跡をくらますために止め足を使ったり、トンネルを掘ったりする敵に対する防衛策を持っています。どんなに小さくても、どんなに弱くても、生き物には生き抜く術が備わっているのですね。エゾユキウサギから勇気をもった気分になります。

（ふれあい班 都築勝江）

## <『リッキー』感謝イベント>

12月12日 ライオンの『リッキー』の感謝イベントが行なわれ、雪の降る寒い日にも関わらず沢山のアニマルファミリーの方々が参加されました。田岡飼育員さんのお話では、『リッキー』は何時もと変わらずのんびり過ごしており、今のところ他に移動する計画は無い、とのことで『リッキー』ファンとしてはほっとしました。ハイエナが隣の檻に来た時は、一瞬にらみ付けるような仕草をしたとのお話には、いつも温和な『リッキー』の意外な一面に皆さん驚いていました。その後、一人ずつ火ばさみで馬肉をあげました。自分の手の肉を『リッキー』が食べる様子を間近に見られ大感激でした。いつまでも『ティモン』と仲良くね！  
(ワイルド班 内村まりこ)



## <平成22年度 円山動物園のクリスマス>

今年の円山動物園のクリスマスは、職員の方々による飾りつけが、とっても素敵に園内を盛り上げていました。正面、西門を始め、レストハウスや各動物舎(館)がクリスマスムード一色に染められ、来園者はもとよりボランティアもうきうきした気持ちで、ガイドをすることが出来ました。有難うございます。  
(ワイルド班 星山美千代)



## <『次郎長ジュニア』追悼記>

今日はサル達の食事がいつもより少々豪華となります。それは平成19年12月6日に亡くなった前ボス『次郎長 Jr』の命日ですので、小林飼育員さんをお願いしてボランティア会より、パンとにぼしを差し入れました。食事タイムはいつも11時半頃ですが、匂いの気配で分かるのでしょうか、サル達は11時頃より騒がしく鳴き声も大きく落ち着かない様子です。始めにいつもの野菜などが配られ、次にパンが撒かれた瞬間、大興奮状態となりました。口の中に何個も詰め込んでの「ダルマ顔」！。脇の下や足指等フルに活用してパンを確保し2本?手足走行。サル達も必死です。にぼしもとても美味しそうに食べていました。今回で命日の差し入れ行事は終わりますが、又、違った形で出来たらよいと思います。ユーモラスな姿に来園者たちも笑いを誘われ、楽しいひと時を過ごすことができました。  
(ワイルド班 大塚美鈴)



## <ユキヒョウのお別れ会>

今日は久しぶりに良いお天気です。11月13日 ユキヒョウ 『ヤマト』と『ユッコ』のお別れ会が開催されました。土曜日ということもあって人出は申し分なく、昼過ぎには熱帯動物館に大勢の人たちが集まってくれました。『ヤマト』と『ユッコ』はお母さんの『リーベ』と同じ部屋に入り、最後のお別れです。何かを感じているのでしょうか、2頭はお母さんの後についてそわそわと歩き回っています。



去年5月に誕生し一般公開の時は、行列が出来るほど入園者が押し掛け、ひと目見るのが大変でした。どちらが『ヤマト』、『ユッコ』と大騒ぎでした。かわいくて、かわいくて、『リーベ』本当にありがとう、良く頑張ったね。感謝と感激で胸が一杯になった事を、昨日のように思い出されます。

ユキヒョウは絶滅の危機に瀕しています。国内の動物園で20頭しか飼育されていません。『ヤマト』『ユッコ』は大事な2頭です。これから旅立ち立派なお父さん、お母さんになる姿を見せて下さい。ありがとう。(ワイルド班 鈴木一恵)

## <「小鳥の巣作り」を今年もやりました。>

10月3日、「小鳥の巣作り」を、多くの来園者に楽しんでもらいました。今回はこれまでの手順を少し変えた形で進めてみました。参加者に材料を選んでもらっていたのを、事前に一人分ずつのキットにしておいたのと、作業時間も15~20分位としたことで、スムーズな流れになりました。あいにくの小雨に加え、会場がオオカミ舎2階という見えにくい場所だったため、1階入口で案内板を片手に呼び掛けが必要でした。それでも呼び込みに応じて2階に上がって頂いた来園者には、大いに楽しんでもらえたと思います。ただ残念だったのは、11歳の女の子がグルーガンで火傷を負ったことです。この度は応急手当で済みましたが、危険作業であることの説明の重要性と、保険等の用意も考えに入れる必要を感じました。  
(やせい班 小笠原和子)



円山動物園に勤務されて足かけ 25 年になり、今いるキーパーさんの中では 3 番目の古株との事でした。札幌市の職員に採用されて最初に配属されたのが動物園でしたが、希望ではなく逆に全く念頭に無かった部署だったので驚いたそうです。

Q そのままずっと動物園で 25 年経ったと言うことですが、転勤は希望されなかったのですか？

予想もしなかった職場でしたが、動物嫌いでは無かったので、慣れるにつれ動物達に興味や愛情がわき、配転希望を出そうと思ったことは一度もありませんでした。最初に担当したのはカバでした。初めて間近に見るカバの巨体には圧倒されました。その後、キリンを 7 年、そしてゾウを 9 年担当しました。モンキーハウスを担当してまだ 3 年で、1 係だったので 2 系のモンキーハウスでは新人と同じです。今までの仕事の内容と少し違いがあり、皆にいろいろ教えてもらいながらやって来ました。

Q 今迄で特に強く印象に残っている事はどんな事ですか？ アジアゾウの『リリー』や『花子』との別れなど、それぞれの動物ごとに色々な事がありました。ある時キリンがゴールデンウィーク中の昼間に出産しました。気が付くと屋外放飼場にいた雌の膣から赤ん坊の片足が出掛かっています。先輩の話では「今迄外で産ませた事は無い」と言うので、急いで屋内に入れようとしたが入ってくれません。文字通り押したり引いたり苦労しましたが、何とか収容が間に合って無事室内で産み落としてくれた時はホットしました。動物達の出産日予測は難しくてなかなか当たりませんが、キリンについては他の人に先駆けて 3 度目に何とか当てられるようになりました。

Q 仕事上気をつけている点、動物の裏話や苦労話を教えてください。モンキーハウスは飼育室が 12 もあるので、各室の扉の鍵の掛け忘れが無いよう特に気を使い、一回一回指差し呼称で確認しています。エサやりなどおサル達との接し方で気を付けている事は、檻の中では眼を合わせないようにし、距離を保つ事です。眼が合うと「自分に何かするつもりか？」と警戒して威嚇してきます。苦労するのは投薬の時です。苦い薬は絶対のんでくれないので、甘く味付けしたり、好きな食べ物の中に埋めたりしますが、サル達は丸のみせず齧るので直ぐ気づき、神経質な固体になるとその後は同じ形のものは絶対口にしないか、慎重に少しずつ齧り薬が出てくるとピッと棄ててしまいます。知恵比べだが頭が良くて大変です。面白い話としては、ある時マンドリルの『シズカ』が足に怪我をしたので、たも網で収容し治療した時の事、『チャールズ』は次は自分の番と思い、恐くて(?) 息み過ぎたのでしょう、脱肛してしまい今度は『チャールズ』の治療で大変でした。怖そうな風体ですが神経質で繊細なんです。

Q モンキーハウスの見どころと、お勧めポイントを教えてください。モンキーハウスには 9 種 28 頭のサルがいて、皆それぞれ面白い個性を持っています。例えば鳴き声は種類によって違います。ドグエラヒヒはその名の通り犬のようにワンワンと、ワオキツネザルはゴオーゴオーと大声を出します。又、新世界猿と旧世界猿、原始的な猿の違いなど比較して見ると面白いです。

Q 今後についての希望とボランティアへのアドバイスをお聞きかせください。まずは『花子』の還暦の時、赤いマントと帽子をボランティアさんからプレゼントして頂きました。改めてお礼を申し上げます。ダイアナモンキーのオスは 28 歳と高齢です。まだ繁殖能力はありますが、群れに若いオスを入れたいですね。又、国内でダイアナモンキーがいるのは、8 園 22 頭、円山は内 7 頭でかつ繁殖できているのはここだけです。「毎年可愛い赤ちゃんが見られます。」と大声でアピールして下さい。

どんな質問にも嫌がらずに応じて頂き、餌の中身と作り方、更にバックヤードも見学させて頂き、有難うございました。ご家族は職場結婚の奥様と 2 歳半の男の子の 3 人。趣味は海釣りとは今はお子さんと遊ぶことで、最近は一緒に他の動物園にも出かけるそうで、「その時はキーパーの目線ではなく、子供目線で一緒に楽しみながら見るようになりました。新しい発見もありますよ。」と嬉しそうに話してくれました。(クマチカ班 山川泰弘)

### < ホッキョクグマ『ララ』の誕生会 >



11 月 20 日 『ララ』は 16 歳になります。妊娠していれば出産準備に入る為、3 週間も早く、かつファミリーが多い為、10 月 31 日と 11 月 6 日の 2 回に分けてアニマルファミリー対象の誕生会が開催されました。初回は 60 名が参加され、「ホッキョクグマ繁殖プロジェクトにより、今冬は釧路の『クルミ』、旭川の『ルル』『サツキ』にも子宝が期待されている」と酒井園長の話があり、次いで河西キーパーさんから「今回は今迄に無い大量の木材チップを産室に入れ体制を整えている」と説明がありました。そして生きたサケがプレゼントされプールに放されました。ところが今日は水に入りたくないのか、『ララ』は縁から覗くだけ。その間おすそわけにあずかった『ピリカ』は大喜びでプールに飛び込み、観客も『ピリカ』へと流れました。その後『ララ』もプールに入りプレゼントを受け取ってくれたので、皆ホッとして拍手を送っていました。元気な赤ちゃんを産んでくれるようお祈りいたします。

(クマチカ班 山川泰弘)

## <『ココ』の感謝イベント>

12月5日は、ホワホワ・ホカホカとやさしい心の日となりました。午前11時に『ココ』の双子の赤ちゃんの命名式があり、札幌の花・木から『リリイ』と『ライラ』と云う可愛い名前になりました。午後からは『ココ』の感謝イベントが開催され、親子連れなど多数のファミリーが参加されました。テーブルには『ココ』へのプレゼントのブドウ・リンゴが並べられ、川野飼育員さんの説明を聞きながら、眼は『ココ』と双子の近況が映し出された大スクリーンにクギ付けとなり、ため息と歓声の中、癒しのひと時を過ごす事が出来ました。好奇心旺盛な『リリイ』は『ココ』が食べているリンゴに寄ってなめています。『セイタ』ならパンチで追い払われれますが、『リリイ』には決して怒らず、逃げながら食べています。おっとりの『ライラ』はリンゴを口に近づけられると、イヤイヤしてプイと顔を横向けます。その仕草は一昔前の我が子の離乳食期の姿と重なり、ホンワカした気持ちにさせられました。冬は発情期です。『ココ』もそろそろ繁殖準備でしょうか。『リリイ』と『ライラ』、お姉ちゃんになれるといいね。



(ワイルド班 田辺るみ子)

## <「ハロウィンの日」が開催されました。>



10月17日 私が円山動物園で迎える2度目の「ハロウィンの日」がやって来ました。今年は期待された秋晴れとまでは行きませんが、まずまずのお天気の中で、足を運んでくださった大勢のお客さんと、一緒に楽しむことが出来ました。私がお手伝いした熱帯動物館やフェイスペイントのコーナーでも、子供から大人まで沢山の人の笑顔を見ることが出来ました。熱帯動物館では、マントや帽子をつけて写真撮影が行なわれました。ノリノリでポーズをとる子、なかなか衣装が決められない子、色々な子供達の姿が見られました。フェイスペイントは、私が今回初めて挑戦したことであります。描く私も、描かれるお客さんも、ドキドキしながらの時間を過ごしました。かわいく、かっこよく画き上がった顔を見て、お客さんと一緒に私も爽やかな笑顔になることが出来ました。来年も頑張ります。

(ワイルド班 生出夏海)

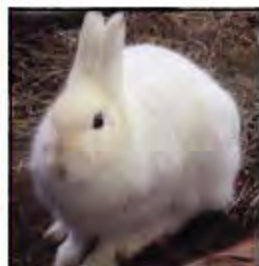
## <『タツオ』君のお別れ会>

12月12日 アムールトラの『タツオ』君のお別れ会がありました。雪がちらつく中50人ものお客さんが集まって下さいました。『タツオ』君は平成9年4月8日名古屋東山で生まれ、11年10月円山に来園しました。アムールトラは絶滅危惧種で、『アイ』ちゃんとは仲睦まじく赤ちゃんが期待されましたが、残念ながらおびひろ動物園へ出張となりました。容姿端麗で漂々しい姿が眼に焼きついています。たくさん楽しませてもらいました。有難う『タツオ』君。お元気で。



(ワイルド班 藤川徳子)

## = 投函 コーナー =



\* 「今年も元気にピョン ピョン ピョン」千支のうさぎです、よろしくね！ \*

(ふれあい班 高橋しのぶ)

\* 『ルーク』はババっこ！ 大好きな『ジェイ』ババと追い駈っこ、でもまだまだババには敵わない。 \*

(クマチカ班 山川泰弘)

\* 「季節限定 サル山クイズ」このサル達の名は？ \*

(ワイルド班 田中一江)

\* 『ハヤト』の成長日記 どう？ だいぶ大きくなったでしょう！ 僕。 \*

(やせい班 日記係長)

\* サル名の答え：左上『くに三』 右上『ごっ太』 左下『さえ太』 右下『中松』

## 編集後記

今年の千支は卯年、六十千支では辛卯（かのとう）第28番目に当たります。中国では、ウサギは神の使いと云われ縁起の良い動物とされて来ました。子孫繁栄、商売繁盛、飛躍の年とも云われます。動物園も還暦を迎え、心おどる年でもありますよう、祈念いたします。(次回原稿締め切りは4月16日です)

編集スタッフ：小熊 瞳 松山幸子 高橋しのぶ 大地 淳 田中茂雄 田中一江 星原恵子 水戸久仁子 丹野健治  
山川泰弘 成田 愛 加藤啓子

編集責任者：鳥山 要 (TEL/FAX 011-621-8022) 佐藤正俊